



SNS を利用した図書館情報発信

和歌山県 和歌山県立きのくに青雲高等学校

基本データ

所在地	和歌山市吹上五丁目 6番8号
児童生徒数	1,241 人
教職員数	106 人
蔵書数	約 27,000 冊
年間貸出冊数	1,885 冊

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】読書啓発・指導

【活動のねらい】

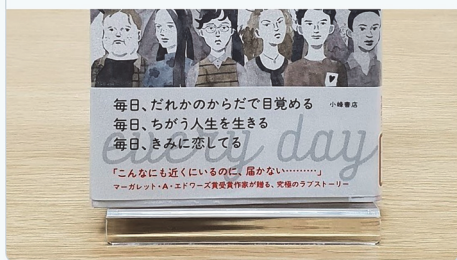
- 本校では、小・中学校時代に不登校や病気などで学習が不十分であったり、経済的に苦しい家庭環境にいる生徒が少なくない。豊かな読書経験や学校図書館に親しんだ経験がほとんどなく、概して活字嫌いな生徒が多い。そのため「図書館だより」のような印刷物を発行しても読まれている実感が乏しかった。
- また、通信制は登校の回数が少なく、アルバイトなどで多忙な生徒たちが多く実態を考えると、従来のまま紙ベースだけで広報をするのには限界があると感じていた。
- そこで若い彼らにとって身近な SNS なら、気軽にいつでも見られるのではないかと考えた。写真を添付して視覚的に訴えられ、迅速に情報を伝える手段としても有効である。また、県内ではこのような取組は初めてで目新しく、図書館や読書に無関心な生徒にもアピールできると考えた。

取組・活動の概要

- 平成 28 年 5 月からツイッターを使って図書館の情報発信を始めた。
- ツイートは学校司書が行い、県より支給されている司書室内のパソコンから発信している。
- ツイートの主な内容は新着図書や開館時間の変更のお知らせ、利用者の読後の感想や学校司書のおすすめの本、生徒とのやりとり、行事の告知や様子など多様である。

きのくに青雲高校図書館 @seiunlib · 6月7日
この本を返却に来た生徒と大雨警報のため迎えに来る親を待つ間に感想など語り合っていて「なんていうか.. AIは強くなって思いました。それに比べて俺なんか...。愛する人は見つけられても愛してくれる人を見つけないのはめっちゃ難しいんやなって思いました」と。ほんまそれな。せつない物語よな。

きのくに青雲高校図書館 @seiunlib · 2018年12月5日
『エブリデイ』デイヴィッド・レヴィサン/著 三辺律子/訳 小峰書店
物心ついた頃から毎朝目が覚めると意識は自分なのに体は違う誰か、というA。そんなAが女の子に恋をする。愛情は信じられても会うたび外見が違うAを彼女は愛せるのか。恋愛以外の部分も深く、すごく想像をかきたてられるお話です。



🗨️ 8 🍷 27 📌

ツイート事例(1)本の紹介(紹介した本を借りた生徒の感想をリツイートを利用してさらに紹介)



ツイート事例(2)新着図書の紹介(図書館だより(月に1度発行)よりも迅速に紹介)

取組・活動の工夫や特徴

- ツイッターを始めても、実際にアカウントを見てもらうのは簡単ではなかった。新入生のオリエンテーションで丁寧に紹介し、校内にポスターを貼って図書館だよりも毎回アカウントを記すなどした。
- 最初の頃、ツイートする内容は基本的に本や図書館に関することだけだった。しかし、ある生徒に「本のことはかりでつまらないから最近見

ていない」と言われた。

- せっかく見てくれたのに図書館だよりのような話題だけでは結局活字嫌いな生徒にはスルーされるということに気づかされた。
- ある程度は図書館に関係の無いことをつぶやける気楽さもツイッターの良い点である。形式張らずに、校内で見つけたちょっとしたことや世の中のトレンドなどを方言も交えた親しみやすい口調でツイートすることを心がけるようにした。
- また、生徒以外にもフォローしてくれる一般の方が増えたが、常に生徒に向けたツイートであることを意識するようにしている。
- とにかく図書館の敷居を下げて来館してもらえるよう多様な話題とし、そして読書に興味がある生徒には読書の世界をさらに広げられるような話題とするなど、現在も試行錯誤している。



ツイート事例(3) 図書館企画の紹介(他にも雑誌のふろくの抽選や長期休み前の特別貸出など)

- SNS 運営を開始する前に、簡易なもので構わないのでアカウント運用ポリシーを作成しておくスムーズに運営できる。運営していくうちにわかってくることも多いため、その都度改定していけばよいと思う。

きのくに青雲高等学校図書館 Twitter アカウント運用ポリシー

(目的)

1. Twitter の特性を活用し、本校図書館利用者の読書活動を推進し、本校生徒へ図書館のPRをする。

(アカウント)

2. アカウント名は「きのくに青雲高校図書館@seiunlib」です。

(発信内容)

3. 開館時間の案内、新着図書のお知らせ、図書の紹介、図書館の様子を発信します。

(留意事項)

4. 原則としてフォローはしません。本校図書館の読書活動を推進すると判断した場合に限りフォローすることがあります。
5. 不適切と判断する投稿があった場合は、投稿者に事前に通知することなく、アカウントをブロックするなどの措置を行います。
6. 本アカウント運用ポリシーは、予告なく変更する場合があります。

(運用の開始)

7. 本アカウント運用ポリシーは、平成28年5月23日より運用を開始します。

図書館 Twitter アカウント運用ポリシー

取組・活動の成果や今後の展望

- 一概にツイッターの効果だけとは言えないが、この取組を始める前に比べて一人当たりの貸出冊数は増加した。
- 本を紹介した後は、すぐに画面を見せながら借りに来たり、以前のツイートをスクリーンショットで保存して問い合わせに来る生徒もいる。
- また学校を休みがちな生徒でもリプライやDM でつながっていられるなど、SNS ならではの便利さがある。
- フォロワー数も年々多くなっているが、アカウント名はほとんどが匿名のため、フォロワーのうち本校の生徒が何人いるか正確に把握できていない。
- また、元々ツイッターをしていないという生徒もいるため、図書館だよりの発行も続けている。
- 最近はインスタグラムをよく利用しているという声も多く、生徒の実情に合う方法を柔軟に試していきたい。